

防護装備適正化に関する検討状況について

ー全面マスク用アノラックの導入ー

2021年6月14日

東京電力ホールディングス株式会社

1. 全面マスク用アノラックの導入

■ 目的

建屋内作業などの汚染レベルの高い作業において、全面マスクの表面に汚染物質が付着し、作業後、マスクを外す際に顔面に汚染物質が付着するリスクを踏まえ、内部取り込み防止対策の一環として、全面マスクを覆うことができる放射線防護装備（アノラック）を導入する。

■ 全面マスク用アノラックの製作に係る検討項目

- ①マスクの形状、サイズに合わせて、アノラックの仕様を検討する。
- ②アノラックの試作品を作成する。試作品の試着テスト（装着のしやすさ、マスク内の曇りへの影響等）を行い、モニターの意見をフィードバックして、試作品を改良し、仕様を確定する。
- ③必要数量を発注し、現場に配備する。



<全面マスク>



<電動ファン付き全面マスク>



<アノラック>

<特徴>

- ・ 視界を確保するため、面体部の位置がシールド加工されている。
- ・ フィルタ部はゴムによる絞り加工を施し、排気部は呼吸の通りを妨げないようにカットされている。
- ・ 頭部及び全面マスクの約80%の部分をアノラックで覆うことができるため、作業中の汚染物質の付着を防止できる。
- ・ 全面マスクの左右のフィルタ部はアノラックの外に出ているため、フィルターカバーを装着して、汚染物質の付着を防止する。



<従来のアノラック>



全面マスクは、アノラック
で覆われていない

作業中に、全面マスク
表面に汚染物質が付着

作業後、汚染物質が
付着している
全面マスクを外す

全面マスクを外す際に、
顔に汚染物質が伝播する
リスクあり

<全面マスク用アノラック>



全面マスクは、アノラック
で覆われている

作業中に、全面マスク
表面への汚染物質の
付着を防止



全面マスクを外す際、
汚染物質の伝播のリスクが
減少

3. 脱衣の流れと汚染付着防止のカイゼン（2 / 2）

【従来の脱衣の流れ】 ●：汚染物質の付着を想定

① 脱衣補助者がアノラックを切る

② 脱衣補助者がアノラック脱衣させる

③ 作業者がカバオールを脱衣する

④ 作業者が全面マスクを外す（全面マスクからゴム手袋や顔に汚染物質が伝播）

【導入後の脱衣の流れ】 ●：汚染付着を想定

① 脱衣補助者がアノラックを切る

② 脱衣補助者がフィルターカバーとアノラックを脱衣させる

③ 作業者がカバオールを脱衣する

④ 作業者が全面マスクを外す（全面マスクから汚染物質の伝播がなくなる）

4. 対応スケジュール

マスクタイプ(メーカー)	対応状況
全面マスク (A社製)	 <p>2020年度に仕様検討が完了。 現在、12,000着を製作中で、2021年10月より使用開始予定。</p>
全面マスク (B社製)	 <p>2021年度に仕様検討、2022年使用開始予定</p>
電動ファン付き全面マスク (A社製)	 <p>2021年度に仕様検討、2022年使用開始予定</p>
電動ファン付き全面マスク (B社製)	 <p>2021年度に仕様検討、2022年使用開始予定</p>